

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800100		
法人名	医療法人 荒瀬会		
事業所名	グループホーム 乙女		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町津志田1161		
自己評価作成日	平成26年2月8日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人様はもちろんご家族様との関係も密にしているんな意見をうかがいながら、今、現在の生活が自立していけるよう援助を行っている。入居者様の日々の生活を観察し、みんなでカンファレンスを行いながら、スタッフ間のケアの統一をはかっている。また、入居者様に安全で楽しく過ごしていただけるよう、定期的に勉強会やケア会議を開催し、スタッフが優しい気持ちで、適切なサービスが提供できるよう努めている。また、地域交流では、近隣の方も含めた消防訓練を実施し、入居者様や施設の内部を把握していただき、災害時等の協力をお願いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年、ホーム長等の変更という過度期にあるが、同系列のグループホームの長年の経験からの抜擢であり、原点に戻り業務内容等の見直しは入居者との密接な時間として生かされ、一人ひとりの現状に即した和やかな時の流れの中で過ごされている。全職員で勉強会を開催しインスリン投与者を受け入れる等意識も高く、居室での生活が中心となりがちな入居者には脳の活性化にとラジカセ等を用意する等、優しいケアが実践されている。自然災害への意識も高く、年2回の防災訓練の他、毎月の自主訓練や落雷事故対策の検討等により有事に備えている。地域の中でのホームとしての初期基盤は確立し、職員の寄り添いと的確なケアが穏やかな時間として生かされ、ボランティアや幼稚園・小学生の慰問等メリハリのある時間は入居者の笑顔を引き出しており、小規模ながらの家庭的な雰囲気が漂うホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「乙女」は今年五年目となり、実績を重ね結果をだせるよう努力しているが、理念の見直しを含め今一度、振り返りと、飛躍を検討している	開設時からの理念の実践に、自立に向け家庭の延長としての家事手伝い等と一緒にいう穏やかな生活を支援している。同系列のグループホームでの経験の長い職員が新たに管理者として抜擢され、まずは入居者の現状の把握に取り組んでいるところであり、原点に戻り新たな試みをしていきたいとしている。	新年度に向け全員で方向性の話し合いや、年間目標を設定し進捗状況を話し合こと等により理念の検証として生かされることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幸いにも近隣からの利用者が多く、それぞれ、ゆかりの方々の訪問をいただいている。受け入れはできても、出向いての交流が気になるところであり、更なる機会を模索していきたい。	地域のリサイクル活動、緑の日にちなみ「緑川の日」の清掃活動等地域の一員として参加している。ボランティアの慰問、幼稚園・小学校の慰問や小学校の運動会見学、小学生の育てた餅米等を持ち届けられており、子供から高齢者までの訪問による交流に努めている。入居者の心身的な状況から、中々外に出た交流は難しい現状もあるが、次のステップに向け交流促進に努める意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な方法は、運営推進会議での地域の方々への活動報告や近況報告などを通して、運営委員さまに、更に色々な場所展開をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価を受けた後、評価点、問題点を報告し、更なる発展を検討している	運営推進会議には町役場、区長、民生委員、家族代表、入居者代表により定期的に開催している。ホームからの活動報告や入退居報告、外部評価結果報告の他、地域行事のリサーチの場としてサービス向上に反映させている。	参加者からの意見や提案を記録として残し、進捗状況を説明することで委員からの提案等を引出し、サービス向上に反映されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃はもちろん、運営推進会議での機会を利用し、その時期や状況に合わせた話し合いを行い、実際のサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で時節に応じた意見交換（例：インフルエンザ対策等）や、事故報告書提出等に出向き状況を発信している。また、実地指導やケアマネ業務として更新代行等頻繁に出向き、情報交換を行いケアサービスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことについては、大事なことであり、職員等入れ変わることもあるなか、ケアの統一を図っているが、出来れば定期的に繰り返して認識をより強めたいところである	身体拘束を行わないホームとして基本方針を掲げ、外部研修に参加した職員による復講により再確認とし、職員の言葉がけ等（〇〇はだめ等）、その都度指導し、質の向上に努めている。入居者は徘徊も無く落ち着いた生活であるが、帰宅願望が見られるときには職員の寄り添いや家族との電話等工夫しており、拘束の無いケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待の定義を詳しく学び、より深いケアを目指し、繰り返しの勉強会等により認識を深めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活支援、成年後見人制度については、関係資料を取り寄せ、職員で勉強会を予定している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には運営規程に沿ってケアやサービスについて分かり易く説明し、同意を頂いている。また、不安や疑問などがある場合にちは来居時や電話で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、利用者、家族と対話を持ち、意見を頂いている。また、面と向かって言いにくいことは、意見箱を活用して頂くよう説明している。	家族への情報の発信源として「1日コメント」から、月間の状況報告として健康・生活面等を報告することに変更し、家族の面会時に意見や要望を聴取している。また、言い出しにくいことは意見箱の利用を説明されている。管理者は事あるごとに家族に連絡をし、家族からも電話等により買い物等依頼事を申し出られている。	年数の経過により家族の状況も変化するものと思われる。新体制として、まずは家族同士の顔合わせの機会を作ることを検討いただきたい。花見等のイベントを計画され、家族にも案内してみることもよいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、要望がある場合はその都度、管理者へ報告を行い、話し合いを実施している。	毎月の勉強会の中で意見交換を行ったり、日々管理者は職員とのコミュニケーションを図り、職員の意見や提案には随時全員で検討している。勤務時間の変更や業務内容の見直し、記録表・介護記録等様々な観点から精査し、日常の中で入居者との時間を増やすことを視点に置いた業務体制としており、今後も職員の定着という課題に向けた取り組みに期待される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等、職員が行きたい研修に行かせていただき、スキルアップを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の介護力を把握することを目標とし、職員全員がケアの統一ができるよう検証、実践スキルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にGHがあり、情報の交換や、技術の向上のため、連絡をとりあっている。尚、上益城支部会で意見の交換を行い、更なる向上を目指している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中でのやり取りや、会話が不自由な方に対しては、繰り返し、状態や表情により、理解を深めるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、適切な説明を行い、要望、相談、改善に関し、家族が話しやすい環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネ、家族(利用者さま含む)で各方面から、聞き取りを行い、漏れのない支援を心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な会話を多く取り入れ、利用者様の思いを察し、共感できる関係を作っている。また、尊厳の保持にも職員全体で取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が、利用者と生活している中で生きがいや思いを把握して家族へ細かく伝えることで、協力関係を築き家族間でのコミュニケーションを取りやすくしている。また、面会時は居室へ行き家族との時間を作ったり、たまには職員も入り会話の時間を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加をしたり、足を運んでいる。また、知り合いの方等に会ったときはホームへの来訪の声掛けをしている。	家族や近隣住民の訪問、家族による昔から通う理容院の利用、命日や法要参列等家族の協力を得て馴染みの関係を継続している。また初詣や七夕短冊作り等慣習を継続して支援している。また、地域行事に参加し、地域住民との交流に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や食事の準備、レクリエーション等には職員も中に入り、会話が楽しくできるような雰囲気作りに努め、気の合う仲間での対話の支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退去され、他施設へ入所されてからも必要な情報を提供している。また、面会にもいかせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から生活状態や情報をいただき、必要なサービスの検討を行っている	日常のケアの中で体操やゲーム及び会話等により楽しいひと時を持ち、独語・発語困難、認知症状の厳しい人等には家族等から以前の生活状況を把握し、全員で話し合いケアに繋げている。職員は表情・行動や身ぶり等により推察し、時には笑顔をバロメーターとして捉え情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や担当ケアマネ、家族知人などの話で情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の係わりの中で気付きを感じとり把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の係わりの中で思いや意見等を聞きA DLの向上とともに自分らしく生活できるよう介護計画を作成している。	個々の個人記録、毎月のケアカンファレンスの実施やケアマネジャーによる3ヶ月毎のモニタリングにより現状確認と見直しの必要性を検討している。また、年1回はアセスメントをし、家族の訪問時に意向などを聞き取りし新たなプランを作成している。	ケアマネージャーも変わられたばかりであり、家族・職員の意見を踏まえ、職員のケアに繋がる実現可能なプランとなるような見直しされることを検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有の為にスタッフノートに気づき等は記録し、月に1回の勉強会時に話し合いを行っている。変化があった場合は介護計画の変更を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	アセスメントを行い必要とするニーズを探し、個別的なケアプランを作成し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で安心して暮らせようように地区の区長、民生委員、町の福祉関係の方々との意見交換の場を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人、ご家族の希望に応じ対応している。基本的には家族同行の受診であるが、不可能な時には職員が付添同行している。協力病院がかかりつけ医となり症状管理を行い病院との関係を密にしている。	母体の医療機関をかかりつけ医とし、家族の受診支援を原則として家族の都合等に職員が同行している。受診ノートを活用し、主治医の指示や服薬管理の徹底等に生かし、眼科や歯科等希望するかかりつけ医の受診等家族と連携を図りながら適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付きや変化があった場合は職場内の看護師に相談。診察が必要な時は協力病院への受診を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要情報を医療機関へ提供し、情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りについては管理者、職員で研修に行き、勉強会も重ねてきたが、指針や書類までの作成に至っていない。	重度化や看取りは経口食事ができる状況であれば介護度の如何にかかわらず受入れているが、病状によっては入院となることを説明しており、現状としては看取りケアは行わない方針である。母体が病院であることや福祉施設もあること等が家族の安心感につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署からの緊急救命講習を受ける等、苑内でも実践しながら、緊急の対応に備えている。又、事故発生時には協力病院に連絡し指示を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練はもとより、月1回の避難訓練を行い、検証し、不備が出た場合区長、消防団へ相談しひとつひとつを解決に導いている。	年2回の火災訓練や毎月の自主訓練等危機意識を高くして望んでいる。ホームの避難場所も道路から見える位置として外に向け場所を明示している。運営推進会議の中でも近隣住民に有事の協力を依頼している。また、日々の設備点検や落雷事故対策を検討している。	危機意識の高いホームであり、今後も備蓄の検討や、訓練時には継続して近隣住民にも呼びかけられることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、個個人の誇りやプライバシーを損ねない対応を職員間で話し合い尊厳の保持に努めている。	入居者個々の生活や特性を把握し、入居者の懐かしい言葉で話しかけ、許可を得て入室する等プライバシーに配慮している。また、職員の声のトーンや命令調にならないよう日常的に注意喚起している。職員には守秘義務を守ることや書類を持ち出さない等を徹底するよう指導されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者に合わせた声掛けを行い、意思表示が困難な方には行動、表情の観察をしながら本人に合った自立支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの起床時間に起きていただき朝食を摂られている。また、散歩や外出希望、買物等には職員が付き添って出かけ本人の主張、希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容等自立及び支援にて行っている。また、衣類も自分の好みで着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と食事の準備、片付けを行い、食事の献立や季節の食材の話会話をしながらまた買物時は好みを聞いたり楽しみをもっていただき全員で食事をとるようにしている。	簡単な下ごしらえや配膳・下膳、食器拭き等男性入居者も一緒に食に関わっている。また、一人ひとりの嚥下状態に応じた食事形態を考慮し、介助による食事や入居者・職員が同じ空間で会話のある食卓を提供することで楽しみながら食べる事が出来るよう支援している。職員の手作り弁当や外食等も取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューをもとに料理を作り、食べていただいている。毎食の摂取量は記録し苦手な食材等は形をかえ、栄養のバランスを考えている。また、情報はスタッフ間で共有に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施や就寝前の義歯洗浄を歯洗浄剤を使用し、毎日行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの自立度や排せつパターンを認識し、自然な排泄が出来るように支援し、便秘がちな人にはヨーグルト、牛乳等で排便を促している	トイレでの排泄を基本として、手引きでのトイレ誘導や自立した方でも危険を想定し見守りを徹底したことが、排泄チェック表の記録をホールに変えたことに表れている。昼夜の排泄用品の使い分けや夜のみ使用するおむつの勉強会を行う等入居者の視点に立って検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で、体操や散歩等で体を動かし、水分補給、ヨーグルト等提供し、食事時の食材にも心がけ、排便コントロールを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて入浴していただいている。拒否された方にも無理強いつけず声掛を工夫し、清拭や皮膚観察に努めている。	週2回以上を目安に、希望の時間帯に支援しており早朝から夕方まで入浴されている。今年は脱衣所の広さや寒さ対策に暖房機器等設備を充実し、入浴困難な状態には2名体制としている。入浴拒否が見られると職員が交代して声を掛ける等工夫しながら、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の体調、表情を観察し無理なく活動を促し生活のリズムを整え、夜間はゆっくり休んでいただけるよう努めている。寝付きが悪い時は声掛をし、軽くお茶等を取り入れ会話し、自然に眠られるよう環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬等の情報ファイルを使用し職員全員が目的、用法、用量、副作用などを確認できるようにしている。現在薬は全部施設で管理し、服用時は手渡し、服薬確認をしている。何か症状に変化が見られた場合は詳しく記録し、必要に応じかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯たたみなどひとり一人にあった役割をみつけ力が発揮できる環境作りをしている。また、外出や地域の行事への参加をしたりし、身心活性化の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って、野外にでたり、利用者様の自宅周辺などにドライブに行ったりしている。ひとり一人すべての方の希望に沿っての連れ出しは難しいところである。	ホームの立地条件や入居者の身体の現状では日常的な外出は困難な様子ではあるが、住み慣れた地域の中で出来る範囲での外出を支援している。初詣、花見、自宅周辺へのドライブ、小学校の運動会見学等を支援している。また、誕生日には家族と外出される等家族と連携しながら支援している。	今の現状においては最大限の外出が支援されていると思われる。家族等との協力等により今後も継続した取り組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には金銭管理ができる方もおられる為、財布を持たれ、2～3千円程度を自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の電話要求に対しては、家族の支障のない時間に電話するようにしている。手紙についてはご家族さまからも送られて来たりとやりとりができています。		
	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方とともに季節感のある、飾りを多く取り入れ、間接照明(天窓)などで、ゆっくりくつろげる空間作りをこころがけている	共有空間は掃除が行き届き、適切な清潔保持がなされている。入居者それぞれの状況に合わせたテーブル配置や動線を工夫し、間接照明等採光や換気に配慮されている。浴室の寒さ対策も整えられ、騒音も無く、自然豊かな環境が季節感を醸し出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよい南西にある座イスに座られたり、長テーブルを囲まれたりと、好きなかたと好きなように過ごしてい叩いている。また、テレビは自由に座り、観賞できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのタンスや写真など、利用者の思い出の品物が持ち込まれ住みここの良い部屋作りに努めている。	入居時に馴染みの持ち込みの重要性を説明しており、タンスや写真等が持ち込まれ、写真に毎日手を合わせる方やベッド上の布団等をすべて自分で整理ダンスに片付け整理整頓する方、小学生から届いた手紙を掲示する等落ち着いて過ごせる環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住居環境が適しているか、危険と思われるような箇所がないか、勉強会でのミーティングで話あい、現状に応じた、提案をしている。		